

令和5年度事業報告書

〔1〕学術講演会・研究会および講習会等の開催事業（公益目的事業1）

1. 学術講演会の開催

- ・第119回日本食品衛生学会学術講演会を下記のとおり行った。

開催日 令和5年10月12日～13日

開催場所 タワーホール船堀（東京都江戸川区）

一般演題発表

一般発表 127題（1題取下げ）

口頭発表 29題

ポスター発表 98題（1題取下げ）

受賞者講演 4題（学会賞1、学術貢献賞2件、奨励賞1件）

特別講演 1題

教育講演 4題

講演要旨集発行部数 900部

参加者数 約600名（内有料参加者517名）

2. 特別シンポジウムの開催

- 2-1 第26回特別シンポジウムを下記のとおり行った。

開催日時 令和6年2月16日 13:00～16:00

開催場所 中央区社会教育会館 日本橋社会教育会館8階ホール

テーマ：我が国の水産食品分野をめぐる現状と未来

- 1 我が国の水産業における現状と課題

山本隆久（水産庁）

- 2 水産食品におけるアニサキス汚染状況

大西貴弘（国立医薬品食品衛生研究所）

- 3 持続可能な養殖業をめざして～アトランティックサーモンの陸上養殖～

御手洗 誠（アトランド株式会社）

参加者数 22名

2-2 ブロックイベント

- ・東海・北陸ブロックイベント 第4回東海・北陸公開講演会

主催 公益社団法人日本食品衛生学会 東海・北陸ブロック

共催 中部大学（JST次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING））

開催日時 令和6年2月10日13:30-17:00

開催場所 中部大学春日井キャンパス 不言実行館 アクティブホール

講演内容

- 1 食のグローバル化時代における食品分析の役割
菊川浩史（一般財団法人 食品分析開発センターSUNATEC）
- 2 健康食品に対する誤解 ～「食品だから安全」を信じて大丈夫？～
千葉 剛
（国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所国立健康・栄養研究所）
- 3 グローバル時代にみるビブリオ感染症
～腸炎ビブリオの流行史と変容する東南アジアでの生食のリスク～
中口義次（石川県立大学）

参加者 約 120 名

・北海道・東北ブロックイベントセミナー

主催 公益社団法人日本食品衛生学会北海道・東北ブロック

後援 北海道，ホクレン農業協同組合連合会

開催日時 令和6年2月22日（木）13：00～16：50

開催場所 札幌市エルプラザ 4階 大研修室

内 容 講演

「食品衛生にかかる化学物質汚染への対応と動向について」

- 1 食品分析30年 試験法の検討と研究活動について
西村一彦（北海道立衛生研究所）
- 2 PFASに関する背景と現状について
高橋未来（国立医薬品食品衛生研究所）
- 3 PFAS測定と前処理法に関する情報提供
高柳 学（ジーエルサイエンス株式会社）

企業展示

企業プレゼン

「残留農薬・残留動物用医薬品検査における前処理についての最新情報」

（プレゼン6社終了後、パネルディスカッションを実施）

展示企業 10社

参加者数 65名（講師、スタッフ、展示企業19名含む）

情報交換会参加者数 30名

・近畿ブロック

第6回日本食品衛生学会近畿地区勉強会

開催日 令和6年3月1日（金）

場 所 大阪公立大学 I-site なんば

内 容 （午前の部）

食品の試験・検査現場の担当者間における情報共有ワークショップ

(午後の部)

一般発表 6題

話題提供 2題

1 検査機関のGLP及び食品工場のHACCPの立入検査からみた食品衛生

井上智子(甲南女子大学)

2 ウイルス性肝炎(A型、E型)～食品衛生の観点から～

三好龍也(堺市衛生研究所)

参加者数 午前の部 80名、午後の部 110名、情報交換会 75名

延べ 118名

3. 公開講演会

・令和5年度公開講演会

開催日時 令和5年6月5日 10:00～16:00

開催場所 中央区立日本橋公会堂

講演内容

1. リスク評価に基づく食中毒制御 山本茂貴(内閣府食品安全委員会)

2. カビのリスクを考える

小西良子((公社)日本食品衛生学会会長 東京農工大学)

・令和5年度 食品中の残留農薬等に関するリスクコミュニケーション

「食品中の農薬の基準は、どうやってつくられているの？」

共催 厚生労働省、公益社団法人日本食品衛生協会、公益社団法人日本食品衛生学会

開催日時 (1)令和5年11月17日(金) 13時30分～16時25分

(2)令和5年12月1日(金) 13時30分～16時25分

開催場所 (1)TKP 大阪淀屋橋カンファレンスセンター

(2)TKP 新橋カンファレンスセンター

講演内容

1. 基調講演「農薬ってそんなに危険!？」

永山敏廣((公社)元日本食品衛生学会会長)

2. 行政担当官からの情報提供

2-1. 「農薬の登録と適正使用について」

大阪会場……山原 洋佑(農林水産省 農産安全管理課農薬対策室)

東京会場……河合 智之(農林水産省 農産安全管理課農薬対策室)

2-2. 「残留農薬の基準設定等について」

大阪会場……富田 耕太郎(厚生労働省 残留農薬等基準審査室)

東京会場……三木 真之介(厚生労働省 残留農薬等基準審査室)

2-3. 「残留農薬の安全性評価について」

栗山 泰(内閣府食品安全委員会 農薬評価室)

3. パネルディスカッション

ファシリテーター 瀬古 博子（消費生活アドバイザー）

4. 関連学（協）会との連携および協力

・主催 日本食品衛生学会・日本食品微生物学会・日本食品化学学会

「ifia JAPAN2023 食の安全・科学フォーラム 第22回セミナー&国際シンポジウム」
は下記を開催した。

開催日 令和5年5月17日

場 所 東京ビックサイト

内 容 水産食品の安全性

第一部 水産食品の安全性と規格

水産食品の安全性確保：ハザードとリスク管理

内海宏之（厚生労働省）

JFS-B規格の概要と水産加工食品におけるJFS規格取得事例紹介

大羽哲郎（（一社）食品安全マネジメント協会）

第二部 製造現場におけるリスク要因とその対応

再注目されるリステリア管理

木村 凡（東京海洋大学 名誉教授）

「FDA魚介類と魚介類製品におけるハザードと管理の指針」の紹介

山口隆宏（（一社）大日本水産会）

水産食品におけるアニサキスの汚染状況

大西貴弘（国立医薬品食品衛生研究所）

水産分野における薬剤耐性

古下 学（水産大学校）

参加者数 67名

・関連学会等への共催・協賛・後援

当学会は、関連学会等、の団体に下記のとおり共催・協賛・後援を行った。

共催 なし

協賛 ifia JAPAN 第28回国際食品素材/添加物展・会議（令和4.5.17-19）、
熱測定オンライン講習会2023（令和5.6.15、6.30、7.14、7.28）、日
本包装学会第32回年次大会（令和5.7.20-21）、第26回IUPAC化学熱学
国際会議（令和5.7.30-8.4）、第30回日本免疫毒性学会学術年会（令和
5.9.11-13）、標準化と品質管理全国大会2023（令和5.10.4）

〔2〕学会誌等の発行（公益目的事業2）

・学会誌等を下記のとおり発行した。

食品衛生学雑誌（6冊） 第64巻2号～6号 各発行部数 1,750部

第 65 卷 1 号	発行部数	1,700 部
食品・食品添加物等規格基準（抄）	発行部数	1,000 部
第 119 回学術講演会要旨集	発行部数	900 部
啓発用のリーフレットの作成	印刷部数	1,000 枚

- ・ 下記を学会 HP に掲載した。

残留農薬等のデータベース
リスクコミュニケーションの動画

[3] 研究業績に対する表彰事業（公益目的事業 3）

- ・ 令和 5 年度日本食品衛生学会賞等授賞式を第 119 回学術講演会において下記の受賞者に対して行った。

「学会賞受賞者」

長島 裕二（新潟食料農業大学）「フグの毒化機構と安全確保に関する研究」

「学術貢献賞受賞者」

大城 直雅（国立医薬品食品衛生研究所）「シガトキシン類微量分析法の確立とシガテラ魚類中毒のリスク管理に関する研究」

西村 一彦（北海道立衛生研究所）「脂肪酸並びに食品に残留する化学物質分析法の改良と調査研究」

「奨励賞受賞者」

内山 陽介（神奈川県衛生研究所）「デオキシニバレノールおよびシトレオビリジンのリスク評価に資する毒性学的研究」

- ・ 食品衛生学雑誌第 63 巻論文賞授賞式を第 119 回学術講演会において下記の受賞者に対して行った。

「合成樹脂製の器具・容器包装における溶出試験の精度の検証 <報文>」第 63 巻第 2 号 p. 51~61 尾崎麻子¹ 六鹿元雄² 岸 映里¹ 阿部智之³ 阿部 裕² 安藤景子⁴ 石原絹代⁵ 牛山温子⁶ 内田晋作⁷ 大坂郁恵⁸ 大野浩之⁹ 風間貴充¹⁰ 加藤千佳¹¹ 小林 尚¹² 佐藤 環¹³ 柴田 博¹⁴ 関戸晴子¹⁵ 高島秀夫¹⁶ 田中 葵¹⁷ 外岡大幸¹⁸ 花澤耕太郎¹⁹ 山口未来² 山田悟志²⁰ 吉川光英²¹ 渡辺一成²² 佐藤恭子² ¹（地独）大阪健康安全基盤研究所 ²国立医薬品食品衛生研究所 ³（公社）日本食品衛生協会 ⁴長野県環境保全研究所 ⁵（一財）日本食品分析センター 彩都研究所 ⁶川崎市健康安全研究所 ⁷（一財）日本穀物検定協会 ⁸埼玉県衛生研究所 ⁹名古屋市衛生研究所 ¹⁰（一財）日本食品分析センター 多摩研究所 ¹¹愛知県衛生研究所 ¹²（一財）食品分析開発センター SUNATEC ¹³福岡県保健環境研究所 ¹⁴（一財）東京顕微鏡院 ¹⁵神奈川県衛生研究所 ¹⁶（一財）化学研究評価機構 大阪事業所 ¹⁷（一社）日本海事検定協会 ¹⁸さいたま市健康科学研究センター ¹⁹（一財）食品環境検査協会 ²⁰（一財）日本食

品検査 ²¹ 東京都健康安全研究センター ²² (一財) 化学研究評価機構 東京事業所

「スポンジたわしを介した調理用ボウル間的小麦アレルギーの二次汚染<報文>」 第 63 巻第 2 号 p. 70~78 橋本博行¹ 池田達哉² 吉光真人³ 清田恭平³

¹ 三重短期大学 ² 農研機構 西日本農業研究センター

³ 大阪健康安全基盤研究所

Evaluation of the Capacity to Produce Histamine by Histamine-Producing Bacteria during Storage at 10°C <Original Paper> 第 63 巻第 4 号 p.

129~135 千葉雄介 藤原 茜 吉野典孝 大阪美紗 佐藤実佳 高瀬冴子 土井りえ 大塚佳代子 島田慎一 石井里枝 埼玉県衛生研究所

〔4〕若手研究者育成事業（公益目的事業 4）

- ・厚生労働省厚生労働科学研究の若手研究者育成活用事業の補助事業者について、令和 5 年度は 1 名を採用した。

〔5〕会員相互扶助事業

- ・会員限定メルマガを配信した（4 月～6 月、月 2 回配信、7 月～3 月、月 1 回）
- ・FHS コミュニティセミナーは、コロナ感染症拡大を考慮し実施しなかった。

〔6〕総会・理事会の開催

- ・令和 5 年度総会を下記のとおり行った。

開催日 令和 5 年 6 月 5 日 13:00~13:30

場 所 東京都・中央区立日本橋公会堂

議 案 令和 4 年度事業報告

令和 4 年度決算報告

令和 5~6 年度役員の選出

定款の変更

名誉会員の推挙

- ・令和 5 年度理事会を下記のとおり行った。

第 1 回理事会

開催日 令和 5 年 4 月 21 日

場 所 WEB 開催

報告事項 会員数

職務執行状況

議 案 入会者の承認

退会扱い者の承認

令和 4 年度事業報告案および決算報告案および監査報告

選考基準の改訂、令和 5-6 年度役員、学会活性化委員の選出
令和 5 年度名誉・特別会員候補者の推挙
令和 6 年度学会賞等選考委員会委員の選出
定款の変更
令和 6 年度通常総会招集通知について
厚生労働省食品の安全確保推進研究推進事業に係る取扱規程

第 2 回理事会

開催日 令和 5 年 6 月 5 日
場 所 中央区立日本橋公会堂 対面 WEB 併用開催
会長の選出、副会長の選出
議 案 令和 5～6 年度編集委員会委員の選出
令和 5～6 年度情報委員会委員選出
令和 5～6 年度組織・運営委員会委員長および委員の選出
令和 5～6 年度常任理事の選出
令和 5～6 年度役員等選考委員会委員の選出

第 3 回理事会（書面）

開催日 令和 5 年 6 月 29 日
議 案 入会者の承認
令和 5～6 年度常任理事の選出
令和 5～6 年度組織・運営委員会委員長および委員の選出
令和 7～8 年度役員等選考委員会委員の選出
令和 5～6 年度メルマガ編集委員の選出

第 4 回理事会（書面）

開催日 令和 5 年 7 月 25 日
議 案 入会者の承認
食品の安全確保推進研究推進事業に係る取扱規程の変更

第 5 回理事会

開催日 令和 5 年 9 月 25 日
場 所 WEB 開催
報告事項 会員数
職務執行状況
議 案 入会者の承認
規定並びに内規の見直しについて
今年度ブロック活動費について

投稿規定の変更

第6回理事会

開催日	令和5年12月18日
場 所	WEB開催
報告事項	会員数
議 案	入会者の承認 事務局移転登記 理事会及び委員会活動進め方について 規定の改訂 会議システムアプリケーションについて

第7回理事会

開催日	令和6年2月28日
場 所	WEB開催
報告事項	会員数 職務執行状況
議 案	入会者の承認 令和6年度学会賞等受賞者について 第64巻食品衛生学雑誌論文賞 令和6年度感謝状対象者 令和6年度事業計画および予算及び設備投資の見込み 周年事業・公開講演会積立運用規定の廃止 役員等選考委員会からの提案 情報委員会からの提案 リサーチレジデントの学会出張費について 事務局業務分担について

令和5年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規則する附属明細書「事業報告に内容を補足する重要な事項」は存在しない。